



2022年雨期作が始まる!

成果 1: 栽培技術



< 移植ワークショップ >

1. 次期雨期作Farmers Field School (FFS)に向けた準備

次期FFSの準備として、マリアナIとブルト灌漑スキームの両サイトで計12名のモデル農家、およびチャクブ組合とアセルダ社のメンバーシップ参加農家を含む200名のリード農家を選定した。また、普及員と共にFFSの詳細活動計画を話し合う会議を開催した。加えて、FFSで使用する肥料、手押し除草機、回転播種機などの農業資材も用意した。

2. FFS雨期作の進捗

FFSワークショップを2021年12月28日より開始した。第1回目(播種・苗床)、第2回目(移植)、第3回目(除草)ワークショップを順次両サイトのモデル農家の圃場にて行っている。

成果 2: 灌漑管理



< 農家参加による予防保全工事 >

1. タスクグループ(TG)による水利用組合再生委員会(WRC)ワークショップ

11月にブルト灌漑スキームで実施したワークショップに続き、11月31日から12月3日までマリアナI灌漑スキームにおいても、タスクグループによるファシリテーションにてワークショップが行われた。同ワークショップでは、主に以下3点が確認された。①水利組合(WUA)の現事務局職員の次期総会開催までの続投、②支線長による水利費徴収の開始、③農家以外の灌漑水使用者からの水利費徴収。

2. 水路清掃

水利組合(WUA)として重要な活動の一つである、稲作開始前の水路清掃が、マリアナIとブルト灌漑スキームの両サイトにて終了した。マリアナIでは計121名の農家、ブルトでは計169名の農家が清掃活動に参加した。

3. ブルト灌漑スキームの水路改善

ブルト灌漑スキームにおける上流域と下流域の農家間のかねてからの水分配の課題を解決するため、水路改善工事がタスクグループから関係農家に説明され、関係者で議論し、同改善工事を乾期中に行うことで合意形成がなされた。

4. 農家参加による水路の予防保全

マリアナI灌漑スキームにおいて、幹線水路の下部にある排水トンネルの内側側面が滑落し、幹線水路崩落の危険が生じたため、ボボナ口県灌漑職員のエニシアティブにより農家を含まれる関係者が協力し、緊急補修工事が行われた。同補修工事は、ボボナ口県灌漑職員の監督の下、農家、水利組合(WUA)、ボボナ口県事務所、村役場、タスクグループ、プロジェクト各々が、必要資材や労働力を分担で提供し、4日間で計250名の農家の参加により行われた。本工事は、農家参加による予防保全の好例の一つになるとと思われる。

成果 3: 物流と販売 (民間)



< アセルダ社グループリーダー会合 >

1. 2022年雨期作チャクブ農家組合メンバーシップ

マリアナI灌漑スキームにおいて2022年雨期作のためのチャクブ組合メンバーシップに参加する農家の保有する水田面積測定を継続した。チャクブ組合は、この計測により判明した水田面積に基づき、推奨される量の化学肥料をメンバーシップ参加農家に配布することを開始した。今雨期作では、28グループから成る計279名のメンバーシップ参加農家が、計314ヘクタールの水田で稲作を行う予定である。

2. 2022年雨期作アセルダ社メンバーシップ

12月1・2日にアセルダ社が13名のグループリーダーと会議を開催することを支援した。

3. 国産米消費拡大のための新聞広告

国産米消費を促進するため、11月より地元新聞紙に広告を掲載している。この広告では、4つの国産米を使用しているレストランをこれまでに掲載した。

成果 4: 買取と配布 (政府)



< 国産米振興キャンペーンバナー >

1. FFSプロモーションを兼ねたNLCによる買取り説明会

3月からマリアナIとブルトの両灌漑スキームにおいて、以前National Logistic Center (NLC)に籾を販売した農家を対象にFFS促進を兼ねて、NLCによる買取りに関する説明会を行う予定のため、村長と面談し同説明会の概要説明を行うと共に、NLCによる買取りについて意見交換を行った。村長からは、NLCから農家への支払い遅延は改善の余地があるが、NLCは大量の籾を購入してくれるので重要な販売先であると話があった。

2. コメ生産振興キャンペーン

コメ生産振興キャンペーンとして、1分間のテレビコマーシャルを作成し、2つの現地テレビ局を通じて12月25日から一ヶ月間全国的に放映した。また、キャンペーンのバナーも作成し、マリアナIとブルトの両灌漑スキームの各村役場に設置した。